

【51】地球温暖化と大雪

今冬の北海道から日本海沿岸、九州鹿児島にまで到る大雪は記録づくめで、北海道の帯広では12時間の降雪量が120cmと、観測史上最大を記録したとのこと。

近年は、夏の暑さの記録が毎年のように更新され、地球温暖化論も盛んなのですが、温暖化が進むと雪が増えるとは全く常識的でなく不思議なのですが、書物を開いてみると理由がのっていました。

地球温暖化が進むと気温上昇はもちろんですが、海水温も上昇します。

日本列島に南太平洋から流れてくる黒潮の水温も上がり、その支流で日本海へ流入してくる対馬海流が日本海を暖めるので冬期の蒸発量も増加するとのこと。

そこへ上空にシベリア高気圧の寒冷な気団が入り込んでくると水蒸気が冷却されて雪になり、北西風によって日本列島に押し寄せるのです。

つまり、温暖化による海水温の上昇が降雪量を増加させるのです。

寒気団におおわれた海面からは、条件次第では海水から、“湯気”が盛んに立ちのぼるのが見えるといいますから、莫大な水蒸気が供給されるわけで、これが雪になるのです。

温暖化がさらに進んで、シベリアの冬の高気圧が弱くなれば話は別の局面になるのですが、当面はわが国は過渡期の気象現象として大雪に悩まされそうです。